



しののめ



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802 FAX (0263)51-1290 E-mail: kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

- 「調査研究事業の報告について」…………… p.1
- 「調査研究事業の報告(教科教育部)」…………… p.2
- 「調査研究事業の報告(情報・産業教育部)」…………… p.3
- 「調査研究事業の報告(生徒指導・特別支援教育部)」…………… p.4

調査研究事業の報告について

しののめ154号(2月号)・しののめ155号(3月号)では本年度の総合教育センターにおける調査研究事業の成果をお伝えします。

3月末にはセンターホームページにも掲載されますので、是非ご覧いただき、参考・活用していただければ幸いです。

教育センターホームページ(URL) : www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp



調査研究報告 研修講座における教育クラウドの活用に向けて（調査研究Bチーム）

調査研究の目的

本年度当初の教育現場では、教育クラウドを「どのように活用したらよいか分からない」「活用することによるメリットが分からない」「機器やアプリを活用するための、研修の時間がない」など、戸惑いの声が聞かれました。そこで、当センター研修講座を受講された先生方の「私も授業でやってみよう」という意欲につながればと考え、講座を受講された先生方に教育クラウドの価値や有効性を実感してもらうには、研修講座でどのように取り入れればよいかを調査研究の目的としました。

まずは講座を担当する専門主事が研修

教科等教育研修を担当する専門主事は、基本的な教育クラウドの使い方から研究を始めました。さらに、「研修講座で教育クラウドをどのように使えばよいか?」「こんな使い方はできないだろうか?」という講座担当者の疑問や願いを受け、使い方を探り、実際に研修講座で用いてきました。そして、その様子を互いに紹介し、成果や課題を共有することで、研修講座での使い方について検討を重ねてきました。



教科等教育研修のうち

60講座で教育クラウドを活用 ⇒ **974名**の受講された先生方が体験

研修講座で使用したツールとその活用例

表計算 (googleスプレッドシートなど)

- 自己紹介、参加の目的、自分の取組、課題などを共有
- 発電量を設定し、適切なエネルギーミックスをグループで算出 (技術分野)
- ネットショッピングの模擬体験の結果を共同編集でまとめ、発表 (家庭分野)

文書作成 (googleドキュメントなど)

- 学習指導案を共同で作成 (国語)

付箋 (googleジャムボードなど)

- 感想や疑問点の集約、共有、整理
- 小・中・高の接続において大切なことを入力し、共有 (理科)
- 鑑賞資料の絵の解説を共同編集で作成 (図工・美術)
- 新聞活用の場面や方法について分類 (総合)



ドライブ

- (googleドライブなど クラウド上の保存場所)
- テキスト配付、資料共有
- 成果物の閲覧 (理科)

アンケート (googleフォームなど)

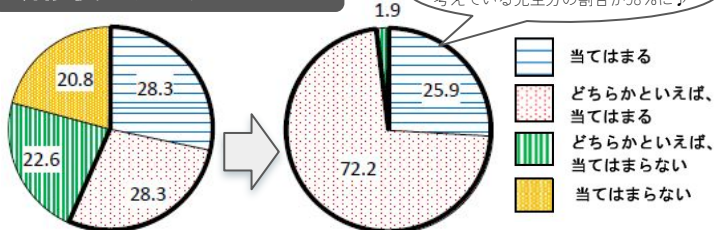
- 講座のはじめに受講目的等を入力
- 受講者のレディネス把握・意識調査
- 研修講座のふりかえり
- 曲の第一印象を集約し、グラフやテキストマイニングで傾向を捉える (音楽)
- フォームによる*CBT問題の体験 (英語)

*CBT: Computer Based Testing

プレゼンテーション (googleスライドなど)

- 共同編集で自己紹介を作成し、共有
- 単元構想・学習指導案 (略案) の作成と共有 (算数・数学、社会)
- 製作記録を作成し、自己評価・相互評価に活用 (家庭分野)
- 実践例を共同編集で集約し、共有 (社会、小学校プログラミング)
- 知識・技能、思考・判断・表現を評価する問題の作成と共有 (英語)
- デザインマンホールのアイデアを共同編集して検討 (図工・美術)

研修後のアンケートから



受講前に教育クラウドを使用した経験がある

今後、教育クラウドを積極的に使用していきたい

受講者の声

アンケートツールや付箋ツールなど便利だなと思いました。

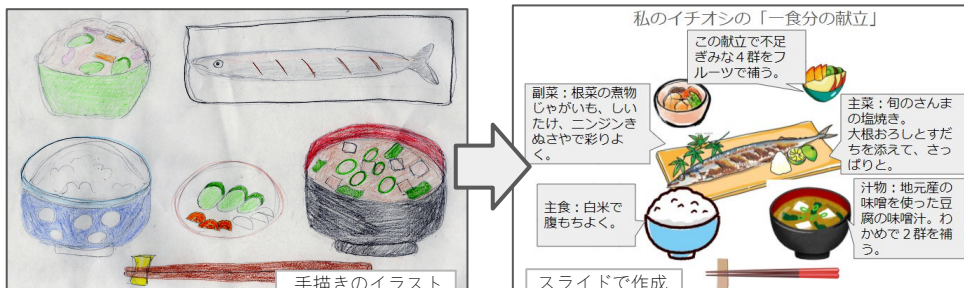
活用方法によって可能性は無限大だと感じました。

使ってみると、使い方も分かりやすく、楽しく体験することができました。

授業の中での効果的な活用が大切だと感じました。

帰校後の活用例

研修講座でgoogleスライドを使って共同編集することに「ワクワク」を感じたT先生は、題材「一食分の献立づくり」のまとめの場面で、生徒が作成する献立の紹介をこれまでの手描きから、googleスライドを使って既成の画像を利用する方法に変えてみました。すると、「イラストを描く時間が短縮できた」「献立の工夫のポイントについてより詳細に記述できた」という成果がありました。また、生徒が仲間の編集しているページを閲覧して自分のまとめの参考にする姿が見られたり、先生がgoogleクラスルームを利用してデータを配付・回収したことにより、課題の提出状況や進捗状況を把握できたりしたそうです。



まとめ

研修講座でクラウドを体験してみることで、授業でも使ってみよう、と思われた先生方がたくさんいらっしゃいました。また、講座担当者も、講座での使い方や授業アイデアを考えることで、クラウドの有用性に気付くことができました。

今年度は、まず「クラウドを使ってみること」に重点を置いて研究を進めてきました。今後は、講座や授業で使ってみて明らかになってきた課題をふまえ、子供たちのよりよい学びにつながるようなクラウドの使い方について研究を進め、授業改善につながる研修講座の運営につとめてまいります。

調査研究の目的

これまでの専門高校における課題研究では、主として、活動計画 ⇒ 実践 ⇒ まとめ ⇒ 発表の順で行われているのが現状であった。特に発表においては、時間の制約もあり、成果に主眼がおかれ、その先のプロセスにつながりにくい状況がみられた。

そこで本研究では、生徒が主体となった探究の学びを促進するために、成果発表から1歩先へ進むためのプロセスを考える。発表時における失敗や改善点が見えるような工夫、また発表後にワークシート等（ICTの活用）を用いて、自分の考えを共有する時間（グループワーク）を新たに設け、農業・工業・商業・家庭・福祉における様々な視点からアイデアの交換を行うなかで学びのスパイラルの促進を図りたいと考え、本研究の目的とした。

研究の方向性

発表者・聞き手双方向による情報共有のための【3つの仕掛け】を設定

本研究での成果発表の方向性



- ① 失敗や改善点が見えるような工夫
⇒ 苦労した場面等を盛り込んだ発表等
- ② 発表後に自分の考えをまとめ情報の共有をするための工夫
⇒ ブレイクアウトルーム、Google Jamboard の活用等
- ③ 様々な視点を得る工夫
⇒ 学科が重ならないようグループ分けし、様々な視点からの意見・アイデアの交換

産業教育 MIRAI フェアでの検証

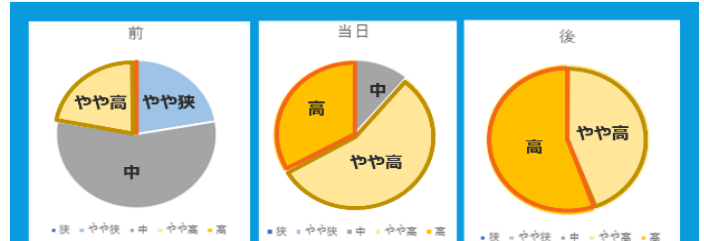
オンラインによる成果発表後、ICT を活用（Google Jamboard を使用）して疑問に思ったことや感想を入力。その後グループワーク（ブレイクアウトルームを活用）では、各学科の枠を超えて（教科横断型で）意見交換することで、新たな発見や考えが共有できるよう（グループ構成等も吟味）に配慮して実施。

指導者からのアンケート結果より

発表前、発表当日、発表後での生徒の視野の広がりの変化においては、指導者からの評価や「他校の発表、ふりかえりから他校の視点による気づきや研究の発展性を考えることに繋げる様子が見られた」という感想からも時間とともに高まっていることがわかる。

アンケート結果より（指導者からの視点）

2 生徒の視野の広がり（他学科の見方・考え方を取入れる）の変化



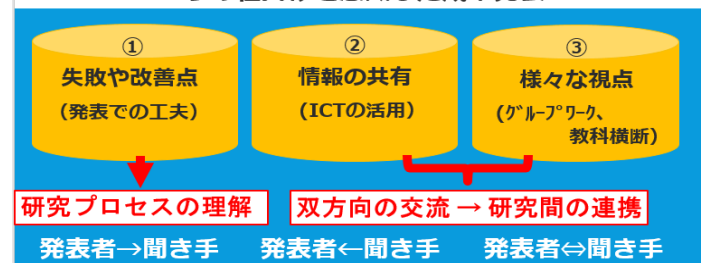
まとめ

3つの仕掛けを意識した成果発表から発表者と聞き手、両者の研究プロセスの理解が深まり、様々な視点から質疑・応答がされ、情報の交換が活発になることで、新たなアイデア・発見が生まれ、研究間の連携等に繋がった。

課題研究の成果発表の場は次のステージへ進む（学びのスパイラル促進の）ためのステップであり、主体的・対話的で深い学びにつながる成果発表について、今後も研究を進めていく。

本研究における成果

3つの仕掛けを意識した成果発表



【調査研究の目的】

◆ ニーズの把握

児童生徒の支援や対応について、教職員の困っていること、知りたいことを調査する。

◆ 活用できる動画の作成

調査をもとに、教職員間で短時間に活用できる動画を作成する。



先生方のニーズを把握し、
動画を作って活用してもらおう！

【調査研究の内容】

◆ アンケート調査の実施

- 対 象：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員
(21回の研修講座の中で実施)
- 回答者数：小学校140名、中学校90名、高等学校75名、特別支援学校52名
- 内 容：児童生徒の支援や対応で、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」「不注意・多動性・衝動性」「対人関係」「感覚過敏・こだわり」の9項目の中から、特に知りたいことについて3つ選ぶ。
- 結 果 (回答率の高かった項目の上位3つ)

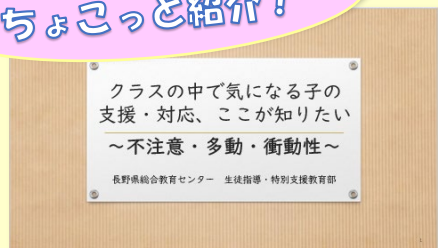
	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
1	不注意・多動性・衝動性	対人関係	対人関係	対人関係
2	対人関係	不注意・多動性・衝動性	聞く	感覚過敏・こだわり
3	書く	聞く	感覚過敏・こだわり	不注意・多動性・衝動性

◆ 動画の作成 (各学校種で最も回答率の高かった項目)

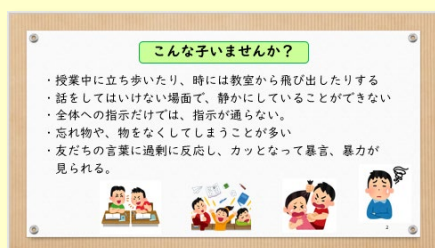


「不注意・多動性・衝動性」「対人関係」にかかわる2本の動画を作成中です。
それぞれ、児童生徒の示す姿、予想される背景、指導・支援のポイント、
まとめ、参考資料の例示で構成されています。

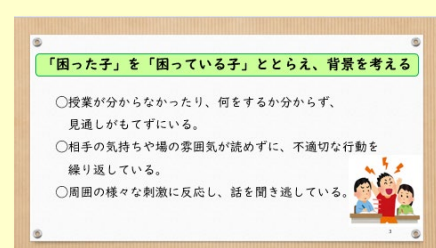
ちょこっと紹介！



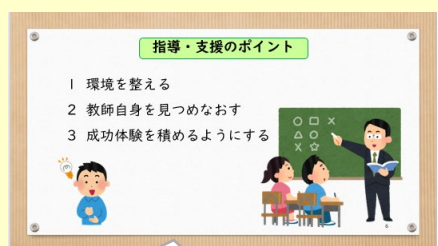
動画のタイトル



児童生徒の示す姿



予想される背景



指導・支援のポイント

職員会や学年会等で、児童生徒の
指導・支援を考えるきっかけとして
ぜひ、ご活用ください！
(4月ホームページ掲載予定。ここで紹介した動画
のタイトルや文章は変更される場合があります。)

